

## 憧れの電気技術者

東京都立多摩工業高等学校 電気科 3年  
花輪 海翔

私の将来の夢は、「安全と安心」の気持ちを忘れない電気技術者になることです。

私は、中学2年生の時に初めて電気について興味が湧きました。私は中学生の頃、勉強がとても苦手で成績も悪かったのですが、中学2年生で受けた電気の授業だけは違いました。電気の授業はとても楽しく問題を解けば解くほど電気の授業が好きになり、また初めて得意な分野が出来た事で勉強に対する自信に繋がりました。そして電気が好きになった私は、工業高校の電気科に入りました。そこで私は電気について沢山の事を学びました。その中でも私は電気の「危険性」と「安全対策」についてとても関心を持ちました。電気は、人が誤って触れてしまうと感電してとても危険です。しかし、生活していく上で身近なコンセントは一般の人が使っても何故安全なのか疑問に思いました。

そして私は、第二種電気工事士と第一種電気工事士の資格を学習し、取得してきたなかで一般の人が電気を安全に使える理由を二つ考えました。一つ目は、「日本の厳しい法律」です。例えば、接地工事に四つの種類を設けてそれぞれ使い分けたり、高圧の電線や低圧の電線、電線の引き込み口などの高さに規定を設けたりと日本は細かい所までルールを決めて安全に気を配っていると言う事。二つ目は、「厳しい基準に基づいた電気部品の使用」です。高圧受電設備は、開閉器やヒューズ、遮断器などを沢山使用してより安全にしていました。この「日本の厳しい法律」と「厳しい基準に基づいた電気部品の使用」が一般の人も電気を安全に使える理由だと思いました。

そして、私は高校2年生の3学期にインターンシップで電気の点検に関する業務を行っている会社に伺わせてもらいました。私はそこで、調査業務と保安業務と広報業務を体験しました。調査業務は、一般家庭などの一般用電気工作物の点検をする仕事です。保安業務は、高電圧を扱う工場やビルなどの自家用電気工作物の点検をする作業です。広報業務は、危険性や安全対策などを実際に小学校などに行き知ってもらうために活動する業務です。その中で私は、調査業務と保安業務を実際に現場に行きました。保安業務の見学をした時は、声を出す事と事前に作業の確認がとても大切だと思いました。高圧受電設備はサイズがとても大きいため複数人で作業するので手違いなどが発生する可能性が高くなり、あらかじめの確認、声を出して伝えるコミュニケーションが大切だと実際に作業している人たちを見て思いました。

私は、インターンシップに行き一般の人が安全に電気を使えるのは、「日本の厳しい法律」を守り、多くの知識が必要な電気技術者が裏で活躍しているからだと思います。そんな影で社会の「安心と安全」を支える電気技術者に憧れと尊敬の念を抱きました。

私自身も、今まで学んできたことを生かし社会を支えられる電気技術者になりたいです。